



業務及び財産の状況に関する説明書

【令和4年10月期】

この説明書は、金融商品取引法第46条の4の規定に基づき、全ての営業所又は事務所に備え置き、公衆の縦覧に供するために作成したものです。

トロント・ドミニオン日本証券株式会社

I. 当社の概況及び組織に関する事項

1. 商号

トロント・ドミニオン日本証券株式会社

2. 登録年月日（登録番号）

平成 29 年 6 月 1 日（関東財務局長（金商）第 2992 号）

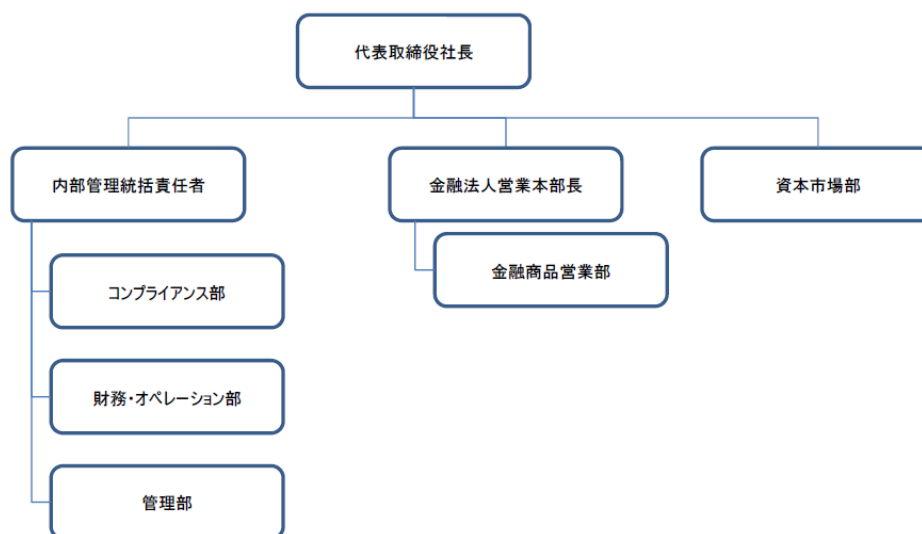
3. 沿革及び経営の組織

(1) 会社の沿革

年 月	沿 革
平成 29 年 6 月	金融商品取引法に基づく第一種金融商品取引業登録 日本投資者保護基金に加入
平成 29 年 7 月	日本証券業協会に加入

(2) 経営の組織

トロント・ドミニオン日本証券株式会社 組織図



4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

氏名又は名称	保有株式数	割合
1. The Toronto Dominion Bank (銀行)	株 5,500,010	% 100.00
2. 以下余白		
3.		
4.		
5.		
6.		
7.		
8.		
9.		
10.		
その他 (0 名)		
計 1 名	5,500,010	100.00

5. 役員 (外国法人にあつては、国内における代表者を含む。) の氏名又は名称

役職名	氏名又は名称	代表権の有無	常勤・非常勤の別
代表取締役社長	大塚 武生	有	常勤
代表取締役	河村 正治	有	常勤
代表取締役	ジャヤント・ジョバン プトラ	有	非常勤
取締役	キャリー・フォング	無	非常勤
監査役	ラジーブ・ ウィジェトウンガ	-	非常勤

6. 政令で定める使用人の氏名

- (1) 金融商品取引業に関し、法令等（法令、法令に基づく行政官庁の処分又は定款その他の規則をいう。）を遵守させるための指導に関する業務を統括する者（部長、次長、課長その他 いかなる名称を有する者であるかどうかを問わず、当該業務を統括する者の権限を代行し得る地位にある者を含む。）の氏名

氏 名	役 職 名
河村 正治	代表取締役、コンプライアンス部長 (内部管理統括責任者)

- (2) 投資助言業務（金融商品取引法第 28 条第 6 項に規定する投資助言業務をいう。）又は投資運用業（同条第 4 項に規定する投資運用業をいう。）に関し、助言 又は運用（その指図を含む。）を行う部門を統括する者（金融商品の価値等（金融商品取引法第 2 条第 8 項第 11 号ロに規定する金融商品の価値等をいう。）の分析に基づく投資判断を行う者を含む。）の氏名

氏 名	役 職 名
該当なし	

7. 業務の種別

(1) 金融商品取引業

(令和4年10月31日現在)

業 務 の 種 別
① 第一種金融商品取引業 ・ 金融商品取引法第28条第1項第1号に掲げる行為に係る業務 ・ 金融商品取引法第28条第1項第2号に掲げる行為に係る業務

(2) 金融商品取引業に付随する業務

(令和4年10月31日現在)

業 務 の 種 別
① 有価証券の貸借の媒介又は代理業務 ② 有価証券に関する顧客の代理業務 ③ 有価証券に関連する情報の提供又は助言業務(投資顧問契約に該当するものを除く) ④ 金融商品取引法施行令第1条の8の6第1項第2号に定める範囲の店頭デリバティブ取引の媒介又は代理業務

(3) 金融商品取引業等に関する内閣府令第7条に掲げる業務第3号イ及び第3号の2から第9号までに掲げる事項のうち当社が行う業務

有価証券関連業

8. 本店その他の営業所又は事務所(外国法人にあっては、本店及び国内における主たる営業所又は事務所その他の営業所又は事務所)の名称及び所在地

名 称	所 在 地
本店	東京都千代田区大手町一丁目1番1号 大手町パークビルディング

9. 他に行っている事業の種類

該当なし

10. 苦情処理及び紛争解決の体制 手続実施基本契約を締結する指定紛争解決機関
の名称

特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センター（第一種金融商品取引
業）

11. 加入する金融商品取引業協会及び対象事業者となる認定投資者保護団体の名称

日本証券業協会

日本投資者保護基金

12. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号

該当なし

Ⅱ. 業務の状況に関する事項

1. 当期の業務の概要

新型コロナウイルスによるサプライチェーンの打撃に加え、ウクライナ侵攻によるエネルギー価格の上昇により世界的にインフレが加速、その抑制のため3月のFRBを皮切りに主要国が急ピッチで利上げを実施したため、イールドカーブはフラット化、また逆イールド化が進みました。そのため投資家は外貨ファンディングや為替ヘッジコストが急騰し、外債は年間を通して売り越しが続きました。店頭では顧客の決算絡みの売買や、外債から円債へのシフトなどのフローが目立ちました。特に年度後半には、金利に加えて、為替市場のボラティリティーの上昇や、流動性の枯渇で取引量は一段と減少するなど、極めて困難な市場環境となりました。その中で、豪ドルなど政策金利がターミナルレートに近づいてきたと思われる通貨には一部買いも見えだし、また円高に振れた局面ではリアルマネーによる為替オープンでの買いも僅かながら見えました。また金利スワップ取引や社債・モーゲージ債は比較的活発な取引が行われました。昨年度同様、投資家によるESG債への関心の高まりを反映し、各業態からの投資が増え、取引量の拡大に寄与しました。

2. 業務の状況を示す指標

(1) 経営成績等の推移

(単位：千円)

	令和4年10月期	令和3年10月期	令和2年10月期
資本金	550,001	550,001	550,001
資本剰余金	450,000	450,000	450,000
発行済株式総数	5,500,010株	5,500,010株	5,500,010株
純営業収益	1,408,173	1,271,665	1,178,490
(受入手数料)	1,408,173	1,271,665	1,178,490
((委託手数料))	-	-	-
((引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料))	-	-	-
((募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱い手数料))	-	-	-
((その他の受入手数料))	1,408,173	1,271,665	1,178,490
((国際取引に関する日本法人等への収益分配金等))	1,408,173	1,271,665	1,178,490
(トレーディング損益)	-	-	-
((株券等))	-	-	-
((債券等))	-	-	-
((その他))	-	-	-
営業利益	108,849	98,664	107,135
経常損益	128,015	115,605	107,135
当期純損益	65,231	60,801	51,040

(2) 有価証券引受・売買等の状況

① 株券の売買高の状況（電子記録移転有価証券表示権利等に係るものを除く。）
該当なし

① -2 株券の売買高の状況（電子記録移転有価証券表示権利等に係るものに限る。）
該当なし

② 有価証券の引受け及び売出し並びに特定機関投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況（電子業務取扱業務に係るもの及び電子記録移転有価証券表示権利等に係るものを除く。）

（単位：百万）

		引受高	売出高	特定投資家向け売付け勧	募集の取扱高	売出しの取扱高	私募の取扱高	特定投資家向け売付け勧誘等の取扱高
令和四年十月期	国債証券	—	/	/	—	/	—	—
	地方債証券	—	/	/	—	/	—	—
	特殊債証券	—	—	—	—	—	—	—
	社債証券	—	—	—	—	—	188,337	—
	計	—	—	—	—	—	188,337	—
令和三年十月期	国債証券	—	/	/	—	/	—	—
	地方債証券	—	/	/	—	/	—	—
	特殊債証券	—	—	—	—	—	—	—
	社債証券	—	—	—	—	—	358,351	—
	計	—	—	—	—	—	358,351	—
令和二年十月期	国債証券	—	/	/	—	/	—	—
	地方債証券	—	/	/	—	/	—	—
	特殊債証券	—	—	—	—	—	—	—
	社債証券	—	—	—	—	—	319,717	—
	計	—	—	—	—	—	319,717	—

- ② -2 有価証券の引受け及び売出し並びに特定機関投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況
(電子業務取扱業務に係るものに限る。)

該当なし

- ② -3 有価証券の引受け及び売出し並びに特定機関投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況
(電子記録移転有価証券表示権利等に関する業務に係るものに限る。)

該当なし

- (3) その他の業務の状況

該当なし

- (4) 自己資本規制比率の状況

(単位：%、百万円)

	令和4年10月期	令和3年10月期	令和2年10月期
自己資本規制比率 (A/B×100)	335.0%	332.5%	350.7%
固定化されていない自己資本 (A)	1,038	967	898
リスク相当額 (B)	310	290	256
市場リスク相当額	1	8	10
取引先リスク相当額	4	3	2
基礎的リスク相当額	303	278	244
暗号資産等による控除額等	-	-	-

- (5) 使用人の総数及び外務員の総数

(単位：名)

	令和4年10月期	令和3年10月期	令和2年10月期
使用人	11	12	11
(うち外務員)	7	7	6

Ⅲ. 財産の状況に関する事項

1. 経理の状況

(1) 貸借対照表

(単位：千円)

科 目	令和4年 10月期	令和3年 10月期	科 目	令和4年 10月期	令和3年 10月期
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産	1,661,631	1,474,881	流動負債	557,239	446,294
現金・預金	1,295,168	1,190,533	未払法人税等	45,700	48,017
前払金	-	-	関係会社未払費用	243,490	144,074
未収入金	-	-	未払費用	19,156	12,093
			賞与引当金	248,892	242,108
未収収益	328,487	249,697	固定負債	37,855	37,142
その他の流動資産	37,976	34,650	その他の固定負債	37,855	37,142
			負債合計	595,094	483,436
固定資産	135,642	145,503	(純資産の部)		
有形固定資産	32,025	51,449	株主資本	1,202,179	1,136,948
建物	16,584	20,015	資本金	550,001	550,001
器具備品	15,441	31,433	資本剰余金	450,000	450,000
投資その他の資産	103,617	94,054	資本準備金	450,000	450,000
長期差入保証金	51,110	51,110	利益剰余金	202,178	136,947
長期前払費用	5,300	5,300	その他利益剰余金	202,178	136,947
繰延税金資産	47,206	37,644	繰越利益剰余金	202,178	136,947
その他	-	-	純資産合計	1,202,179	1,136,948
資産合計	1,797,274	1,620,384	負債・純資産合計	1,797,274	1,620,384

(2) 損益計算書

(単位：千円)

科目	自 令和3年11月1日 至 令和4年10月31日	自 令和2年11月1日 至 令和3年10月31日
営業収益		
(受入手数料)	1,408,173	1,271,665
((その他の受入手数料))	1,408,173	1,271,665
(((国際取引に関する日本法人等への収益分配金等)))	1,408,173	1,271,665
営業収益計	1,408,173	1,271,665
純営業収益	1,408,173	1,271,665
販売費・一般管理費	1,299,324	1,173,001
営業損益	108,849	98,664
営業外収益	19,166	16,941
営業外費用	-	-
経常損益	128,015	115,605
税引前当期純損益	128,015	115,605
法人税、住民税及び事業税	72,346	66,100
法人税等調整額	△9,562	△11,295
当期純損益	65,231	60,801

(3) 株主資本等変動計算書

(自 令和3年11月1日 至 令和4年10月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本						株主資本合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
令和4年10月期								
令和3年11月1日残高	550,001	450,000	450,000	136,947	136,947	1,136,948	1,136,948	
当期変動額	-	-	-	-	-	-	-	
新株の発行	-	-	-	-	-	-	-	
当期純利益	-	-	-	65,231	65,231	65,231	65,231	
当期変動額合計	-	-	-	65,231	65,231	65,231	65,231	
令和4年10月31日残高	550,001	450,000	450,000	202,178	202,178	1,202,179	1,202,179	

(自 令和2年11月1日 至 令和3年10月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本						株主資本合計	純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金				
		資本準備金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
令和3年10月期								
令和2年11月1日残高	550,001	450,000	450,000	76,146	76,146	1,076,147	1,076,147	
当期変動額	-	-	-	-	-	-	-	
新株の発行	-	-	-	-	-	-	-	
当期純利益	-	-	-	60,801	60,801	60,801	60,801	
当期変動額合計	-	-	-	60,801	60,801	60,801	60,801	
令和3年10月31日残高	550,001	450,000	450,000	136,947	136,947	1,136,948	1,136,948	

「注記事項」

重要な会計方針に関する注記

(1) 減価償却の方法

有形固定資産

定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりです。

建物	3年
器具備品	3～10年

(2) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支払に備えるため、当社所定の計算方法による支払見込額を計上しております。

(3) 収益及び費用の計上基準

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日）等を適用しており、受入手数料に係る収益は、主に有価証券に関する媒介取引の業務に係るサービスの提供によるものであり、サービス提供期間にわたり収益を認識しております。

(4) その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項

① 消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

② 外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

会計方針の変更に関する注記

(1) 収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 令和2年3月31日）等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これによる、計算書類への影響はありません。

(2) 時価の算定に関する会計基準等の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 令和元年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 令和元年7月4日）第44-2項に定める経過的な取り扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、計算書類への影響はありません。

貸借対照表に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額

229,605 千円

(2) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

金銭債権 未収収益 328,487 千円

金銭債務 未払費用 243,490 千円

損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高

営業収益 受入手数料 1,408,173 千円

販売費及び一般管理費 635,854 千円

株主資本等変動計算書に関する注記

(1) 当事業年度末における発行済株式の種類及び総数

普通株式 5,500,010 株

(2) 当事業年度中に行った剰余金の配当に関する事項

① 配当財産が金銭である場合における当該金銭の総額

なし

② 配当財産が金銭以外の財産である場合における当該財産の帳簿価額の総額

なし

金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

当社の保有する金融商品は、金融資産としての現金預金のみです。

(2) 金融商品時価等に関する事項

現金は注記を省略しており、預金は短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似することから、注記を省略しております。

税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳は、次のとおりであります。

賞与引当金	76,722 千円
減価償却費	31,243 千円
資産除去債務	6,514 千円
その他	9,189 千円
繰延税金資産小計	123,170 千円
評価性引当額	△75,963 千円
繰延税金資産合計	<u>47,206 千円</u>
繰延税金負債	
繰延税金負債合計	<u>0 千円</u>
繰延税金資産の純額	<u>47,206 千円</u>

関連当事者取引に関する注記

(1) 親会社及び法人主要株主等

(単位：千円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	The Toronto-Dominion Bank	被所有 直接 100%	サポートサービス	受入手数料 業務委託費	1,408,173 518,895	未収収益 未払費用	328,487 222,458

取引条件及び取引条件の決定方針等

当事者間の協議の結果決定しております。

(2) 兄弟会社等

(単位：千円)

属性	会社等の名称	議決権等の所有割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社の子会社	TD Securities (USA) LLC	なし	役務の提供	業務委託費	25,278	未払費用	5,094
親会社の子会社	TD Global Finance Unlimited Company	なし	役務の提供	業務委託費	11,385	未払費用	2,596
親会社の子会社	Toronto Dominion (South East Asia) Limited	なし	役務の提供	業務委託費	80,294	未払費用	13,339

取引条件及び取引条件の決定方針等

当事者間の協議の結果決定しております。

1 株当たり情報に関する注記

1 株当たり純資産額	218 円 57 銭
1 株当たり当期純利益	11 円 86 銭

収益認識に関する注記

収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「重要な会計方針に係る事項に関する注記(3)収益及び費用の計上基準」に記載しております。

2. 借入金の主要な借入先及び借入金額

該当なし

3. 保有する有価証券（トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く）の取得価額、時価及び評価損益

該当なし

4. デリバティブ取引（トレーディング商品に属するものとして経理された取引を除く）の契約価額、時価及び評価損益

該当なし

5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無

当社は、令和4年10月期（自 令和3年11月1日 至 令和4年10月31日）の計算書類及びその附属明細書について、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、新日本有限責任監査法人の監査を受け、適正意見の監査報告書を受領しております。

IV. 内部管理の状況

1. 内部管理の状況の概況

・コンプライアンス部

コンプライアンス部の役割は以下の通りです。

① コンプライアンス

当社の業務全般について、法令等の遵守状況を定期的にモニターし、遵守状況を代表取締役に対して報告する。特に広告・勧誘資料審査、個人情報の管理、法人関係情報の管理、当社の営業活動や個人投資活動の監視を行う。また苦情・トラブルの処理を行う。さらに法令等に関する情報を随時的確に収集・管理し、研修の実施、文書の配布、社内規程の改廃等の適切な方法により、全職員への周知徹底を図る。

当社の業務に伴い発生する各種リスクについての測定・モニタリング及び代表取締役への報告を行う。また法令等に基づき、自己評価を行うとともに内部監査を必要に応じて補佐する。さらに、法令遵守リスク管理プログラムの状況、マネーロンダリング対策（AML）、テロ資金対策（ATF）、贈収賄及び腐敗行為防止（ABAC）の各制度の状況、当社の業務の状況及びについて、トロント・ドミニオン銀行グループのコンプライアンス担当者に報告する。

② 法令等遵守状況の管理・監督

③ インサイダー取引の発生防止・管理及び役職員の自己取引の管理

④ 契約書類の作成及び対外文書・広告等の審査

⑤ 社内規定の管理

⑥ 苦情・紛争及び事故・事務ミス等への対応、処理

⑦ 監督官庁・日本証券業協会等への諸報告・提出書類の届出・提出

⑧ 監督官庁等の検査・調査対応

⑨ 金融商品営業部及び資本市場部によって行われる取引の時の本人確認の監督

⑩ 利益相反管理体制の整備

⑪ 法務全般（必要に応じて外部の弁護士と相談する。）

⑫ 内部監査業務（必要に応じて内部監査を補佐する。）

⑬ 外部監査の実施状況の確認、管理等

⑭ リスク及び限度枠の適用状況の調査及び代表取締役社長への報告

・財務・オペレーション部

財務・オペレーション部の役割は以下の通りです。

① 経理・財務情報

② 規制当局に提出する書類の作成

③ 移転価格税制のプロセス及び割当についての監督

- ④ 税務、確定申告
- ⑤ リスク（市場リスク、取引先リスク及び基礎的リスク）の算定及び管理、コンプライアンス部への報告
- ⑥ 自己資本規制比率の計算
- ⑦ コンプライアンス部に対する月次の自己資本規制比率の報告
- ⑧ 決済及びバックオフィス処理業務の監督
- ⑨ 本人確認及びマネーロンダリング対策に関する事務
- ⑩ 文書の保存に関する体制整備
- ⑪ 電子的方法により帳簿から取引データを抽出し、仮取引確認書を作成し、顧客に送信する。

・管理部

管理部の役割は以下の通りです。

- ① 株主総会及び取締役会に関連する事務の管理
- ② 総務、人事、庶務及びオフィス設備の管理
- ③ 情報開示に関する業務
- ④ 顧客からの苦情の受付及びコンプライアンス部への報告
- ⑤ システムリスクの管理
- ⑥ 災害・危機リスクを含むリスク管理とリスク管理会議の運営

2. 内部監査について

- ① 内部管理統括責任者は、当社の親会社であるトロント・ドミニオン銀行の監査部と連携し、トロント・ドミニオン銀行グループの監査方針に従い、当社の内部監査を実施する。
- ② コンプライアンス部は、必要に応じて当社の内部監査をサポートする。
- ③ 当社の監査役は、内部管理統括責任者による監査について自己監査の弊害が生じることのないようにする範囲で、内部監査の実施や報告、フォローアップにつき監視し、問題があると認めた場合には、トロント・ドミニオン銀行の監査部に報告する。

3. 分別管理等の状況

(1) 金融商品取引法第 43 条の 2 の規定に基づく分別管理の状況

- ① 顧客分別金信託の状況
該当なし
- ② 有価証券の分別管理の状況
該当なし

(2) 金融商品取引法第 43 条の 2 の 2 の規定に基づく区分管理の状況

該当なし

(3) 金融商品取引法第 43 条の 3 の規定に基づく区分管理の状況

① 金融商品取引法第 43 条の 3 第 1 項の規定に基づく区分管理の状況
該当なし

② 金融商品取引法第 43 条の 3 第 2 項の規定に基づく区分管理の状況
該当なし

V. 連結子会社等の状況に関する事項

1. 企業集団の構成

該当なし

2. 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本金の額、事業の内容等

該当なし